

甲斐市立竜王北中学校 自己評価書

令和2年1月24日（金）作成

校長 小林 大

記述者 教頭 青柳 俊也

学校教育目標 「豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

学校経営方針

- (1) 豊かな人間性の育成
- (2) 確かな学力を育む指導と評価
- (3) 体力向上と健康安全意識の向上
- (4) 愛情と信頼に基づく生徒指導の充実
- (5) 安全安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくり

分析・作成にあたって

「学校評価」の目的は、PDCAサイクルにより学校組織や運営等を改善していくことにある。また、その結果を公表することにより、説明責任を果たすとともに保護者や地域住民の理解と参画を得て学校づくりをしていくことにある。そうした観点に立ち、法規（学校教育法・同法施行規則）に定められているからという理由だけでなく、「教育活動の改善を図る手立てとして有効に活用されること」を重要な点として捉え、今年度の「自己評価書」を作成した。

したがって、本校が今年度力を入れて取り組んできたことや課題となる項目について取り上げ、来年度の学校運営に生かしていきたいと考える。

（教職員アンケートについて）

- ・回答群A（とてもそう思う）とB（そう思う）をまとめて「肯定的な回答」とし、肯定率が85%以上の項目は「達成ができている」として評価する。「肯定的な回答」が85%を下回る項目は、現在の本校の課題とする。
- ・昨年度と比べ10ポイント以上差がある項目は、現在の本校の課題とする。
- ・「市」とあるのは、甲斐市の中学校全体（5校）のことである。

（生徒アンケートについて・保護者アンケートについて）

- ・教職員アンケートと関連がある項目については適宜取り上げる。
- ・保護者アンケートのEは、「わからない」という選択肢である。

1 全体の評価結果

- ・肯定的な回答が50項目中41項目で85%を超え、そのうち37項目は90%以上であった。昨年度よりも肯定的な回答が低くなってはいるものの、教職員が高い意識で教育活動に取り組んでいることが見てとれる。

＜本校のオリジナル項目＞

- I⑧「多忙化解消のための取組の成果（学校）」（68.0%）
- II⑨「多忙化解消のための業務改善（個人）」（84.0%）
- III⑨「習得した知識・技能を活用する授業」（100.0%）
- III⑩「主体的・対話的で深い学びを意識した授業」（83.4%）
- IV⑦「道徳の時間を中心とした生徒の豊かな心の育成」（73.7%）
- VI③「読書に積極的に取り組む指導」（100.0%）
- VI④「学校行事に進んで取り組む指導」（100.0%）
- VI⑤「強化週間等を活かした指導」（96.0%）
- VI⑥「生徒が発表活動に主体的に取り組む指導」（100.0%）
- VI⑦「小中連携を意識した教育活動」（100.0%）
- VI⑧「北中ボードの活用」（94.1%）
- ・I⑧、VI⑦、VI⑧については、2年前から設定した項目である。
- ・III⑩は、昨年度「計画的に道徳の時間の実施」としていた。
- ・II⑨については、昨年度から設けた項目である。

<肯定的回答率 85%を下回る項目> ※現状の課題となるもの

- I ⑧「多忙化解消のための取組の成果」 (68.0%)
- II ②「危機管理マニュアルの理解」 (76.0%)
- II ⑨「多忙化解消のための業務改善への努力」 (84.0%)
- III ④「個に配慮した授業」 (72.2%)
- III ⑧「宿題や家庭学習に対する指導」 (83.3%)
- III ⑩「主体的・対話的で深い学びを意識した授業」 (83.4%)
- IV ⑦「道徳の時間を中心に道徳教育を通して、生徒の豊かな心の育成」 (73.7%)
- V ①「地域人材や施設を活用した教育活動」 (68.1%)
- V ②「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」 (63.6%)

<肯定的な回答が、昨年度に比べて 10 ポイント以上の差があった項目> ※現状の課題となるもの

- II ②「危機管理マニュアルの理解」 (95.8%→76.0%)
- II ⑤「職員会議への積極的関わり」 (100%→88.0%)
- III ⑧「宿題や家庭学習に対する指導」 (94.7%→83.3%)
- V ②「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」 (86.4%→63.6%)

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について（教職員用アンケートから）

達成状況

- ・全8項目のうち7項目で肯定的な回答が85%以上（うち4項目は100%）である。
- ・課題項目「多忙化解消のための取組の成果」（肯定的な回答）68.0%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
8	あなたの学校は、多忙化解消のための取組で成果が表れてきている。	今年度	16.0	52.0	28.0	4.0	68.0
		昨年度	4.3	69.6	26.1	0.0	73.9

※喫緊の課題であり、「生徒に向き合う時間」の確保のためにも、対策が必要である。

（課題・意見）

⑥「PDCA サイクルを生かした教育活動」について

- ・Aまでの活動にできていないことがある。

⑧「多忙化解消のための取組の成果」について

- ・成果が表れているとは思えない。
- ・それほど感じない。

改善策

- ・毎週行われている「校内企画委員会」で「業務改善委員会」を行い、職員の多忙化解消や業務改善について話し合う機会をもつ。また、校務分掌にもしっかりと位置づける。
- ・提案を効率化し、会議等の効率化を図る。連絡事項についてはパソコンの掲示板を利用する。
- ・行事が終わるごとに振り返りをし、PDCAサイクルを確立する。3年間を見通した計画を立て、各行事のねらいを精選し、内容のスリム化、業務の効率化を図る。
- ・部活動については、市のガイドラインに則り、平日1日(月曜を基本)と土日のどちらかを原則休むようにする。年間指導計画を提出してもらい、適正な運営状況の点検および指導を管理職が行う。
- ・教職員の意識改革を喚起していく。
- ・PTA組織を有効に使いながら、学校運営を支えてくれる地域人材を探す。また、職場体験学習においても、地域で協力してくれる職場をデータバンクとして年々更新していく。
- ・「きずなの日」を設け、生徒と触れ合う時間をつくり出すとともに、ノー残業デーとする。この日は、部活動や会議等を行わない。

Ⅱ 学校運営について（教職員用アンケートから）

達成状況

- ・ 9 項目中 7 項目で肯定的な回答が 85%以上である。
- ・ 「危機管理マニュアルの理解」は、肯定的な回答の割合が、昨年度より 19.8 ポイント低くなっている。
- ・ 「多忙化解消のための業務改善（個人）」も、依然として課題である。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
9	あなたは、多忙化解消のため、業務改善に努めている。	今年度	16.0	68.0	16.0	0.0	84.0
		昨年度	25.0	62.5	12.5	0.0	87.5

※Ⅰ⑧の項目が学校全体の取組の成果を問うものであるのに対して、Ⅱ⑨の項目は個人の取組に関するものである。多くの職員が意識するよう、意識改革を図る必要がある。

改善策

- ・ 昨年度は、「危機管理マニュアル」が周知されていたが、今年度は不十分だったように思う。年度当初の職員会議で、時間をかけて共通理解を図る必要がある。また、多発している自然災害に対しても、当事者意識をもつよう喚起していきたい。
- ・ 多忙化解消の業務改善に関しては、保護者や地域の理解も得られるような教育活動を行っていく必要がある。

Ⅲ 学習指導について（教職員アンケート、生徒用アンケート、保護者用アンケートから）

達成状況

- ・ 10 項目中 7 項目で肯定的な回答が 85%以上（うち 6 項目は 90%以上）である。
- ・ 肯定的な回答が 72.2%の「個に配慮した授業」では、市と比較して低い割合となっている。
- ・ 「宿題や家庭学習に対する指導」では、肯定的な回答の割合が、昨年度と比較し 11.4 ポイント下回っている。
- ・ 「主体的・対話的で深い学びを意識した授業」において、肯定的な回答の割合が低く、課題である。

【授業について】

- ・ 「個に配慮した授業」（肯定的な回答）72.2%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。	本校	22.2	50.0	22.2	5.6	72.2
		市	37.6	45.9	14.3	2.3	83.5
		H30 本校	15.8	63.1	21.1	0.0	78.9

（生徒アンケートから）

- ・ 「学校の授業は楽しいか」（肯定的な回答）87.5%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
5	学校の授業は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	本校	31.9	55.6	9.1	3.4	87.5
		1年	36.0	52.8	7.9	3.4	88.8
		2年	22.8	57.9	15.8	3.5	80.7
		3年	33.7	57.0	5.8	3.5	90.7
		市	27.6	56.1	12.9	3.4	83.7

- ・ 「先生はよく勉強を教えてください」（肯定的な回答）98.7%

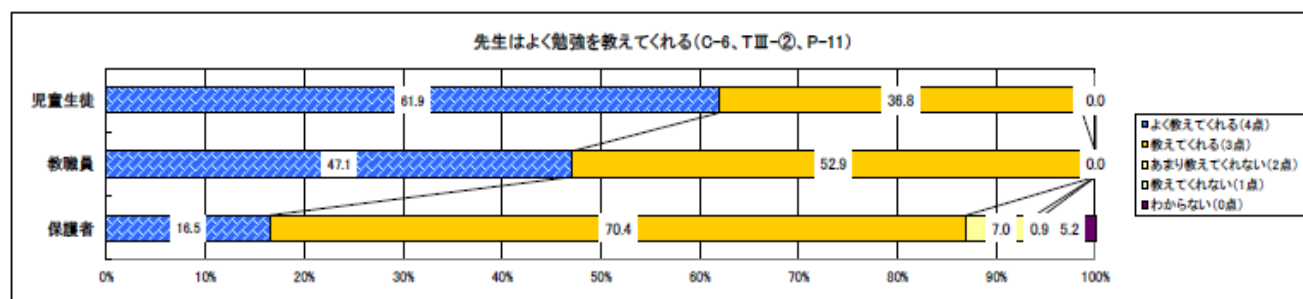
番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
6	先生はよく勉強を教えてください。 A よく教えてくれる B 教えてくれる C あまり教えてくれない D 教えてくれない	本校	61.9	36.8	1.3	0.0	98.7
		1年	61.4	36.4	2.3	0.0	97.8
		2年	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0
		3年	59.3	39.5	1.2	0.0	98.8
		市	57.4	41.0	1.3	0.3	98.4

(保護者アンケートから)

- ・「学校は熱心に授業に取り組んでいるか」(肯定的な回答) 86.9%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
11	学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。 A とても思う B 思う C あまり思わない D 思わない E わからない	全校	16.5	70.4	7.0	0.9	5.2	86.9
		1年	9.9	81.3	1.1	2.2	5.5	91.2
		2年	22.8	61.4	14.0	0.0	1.8	84.2
		3年	19.5	64.6	8.5	0.0	7.3	84.1
		市	12.9	68.0	10.4	1.6	7.1	80.9

<生徒・教職員・保護者との相関>



(教職員アンケートから)

- ・「質問や発言が出てくる授業を行っているか」(肯定的な回答) 94.5%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。	本校	55.6	38.9	5.6	0.0	94.5
		市	42.0	50.4	7.6	0.0	92.4
		H30 本校	50.0	44.4	5.6	0.0	94.4

(生徒アンケートから)

- ・「授業中に発言や発表をするか」(肯定的な回答) 65.7%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
11	授業中に発言や発表をしますか。 A よくする B する C あまりしない D しない	本校	28.7	37.0	28.7	5.7	65.7
		1年	22.7	40.9	30.7	5.7	63.6
		2年	15.8	36.8	38.6	8.8	52.6
		3年	43.5	32.9	20.0	3.5	76.4
		市	29.8	38.6	25.1	6.5	68.4

(課題・意見)

④「個に配慮した授業」

- ・支援員の先生に、個別対応を任せてしまっている状況がある。

改善策

- ・「個に配慮した授業」の肯定的な回答の割合において、本校は市の平均より 11.3 ポイント下回っているが、生徒アンケート及び保護者アンケートにおいては、いずれも市の平均を上回っている。本校職員の授業を追求していこうとする、自分自身への厳しさ故の数値のように思われる。本校は、3年間の県指定「道徳教育」をはじめ、「学力向上」や「言語活動」等、様々な指定研究により、実践力が培われてきている。現在、指定研究はないが、常に生徒が学びたくなる授業の追求を心がけていきたい。
- ・本校の校内研究の研究主題は、『「自ら学ぶ力」を身につけた生徒の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」を目指して～』である。この研究の実践活動を、今後実施していきたい。
- ・校内研究において、「北中ノート」の見直しに取り組んだ。全ての生徒が、自主学習として取り組むことのできるノートを目指した研究である。3学期から「北中ノート」の新たな取組を始めた。今後も PDCA サイクルを念頭に、見直しを繰り返し、さらに良いものを目指していきたい。
- ・「やまなしスタンダード」の中の振り返りについても、校内研究で取り上げてきた。OPPシートを活用することで、授業の振り返りをしていくことを確認した。今後、実践していく中で、さらなる進化を目指していきたい。

IV 生徒指導について（教職員用アンケート、生徒用アンケート、保護者用アンケートから）

- ・ 7 項目中 6 項目で肯定的な回答が 85 % 以上である。
- ・ 生徒指導では、「道徳の時間を中心に道徳教育を通して、生徒の豊かな心の育成」が課題である。

【問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応について】

（教職員アンケートから）

- ・ 「問題行動の早期発見・早期対応ができているか」（肯定的な回答）91.3 %

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができていますか。 （平均値：H29 3.2、H30 3.5）	本校	47.8	43.5	8.7	0.0	91.3
		市	44.7	50.0	4.7	0.7	94.7
		H30 本校	50.0	45.5	4.5	0.0	95.5

（生徒アンケートから）

- ・ 「学校は楽しいか」（肯定的な回答率）92.6 %

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	学校は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	全校	56.0	36.6	5.6	1.7	92.6
		1 年	58.4	31.5	6.7	3.4	89.9
		2 年	45.6	50.9	3.5	0.0	96.5
		3 年	60.5	32.6	5.8	1.2	93.1
		市	52.6	39.6	5.9	1.9	92.2

【相談できる友達・先生について】

- ・ 「困ったことがあったら相談できる友達はいるか」「いない」1.7 % 4 人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
3	困ったことがあったら相談できる友達はいますか。 A いる C あまりいない D いない	全校	89.1		9.1	1.7	
		1 年	88.6		10.2	1.1	
		2 年	91.2		5.3	3.5	
		3 年	88.2		10.6	1.2	
		市	88.8		9.5	1.7	

※この回答から、多くの生徒は困ったことがあったら相談できる友だちがいることがわかる。しかし、全校で 4 人の生徒が「いない」と答えている。

- ・ 「困ったことがあったら相談できる先生はいるか」「いない」5.2 % 1 2 人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
10	困ったことがあったら相談できる先生はいますか。 A いる C あまりいない D いない	全校	78.3		16.5	5.2	
		1 年	71.3		23.0	5.7	
		2 年	84.2		12.3	3.5	
		3 年	81.4		12.8	5.8	
		市	70.8		24.1	5.1	

※この回答から、多くの生徒は困ったことがあったら相談できる先生がいることがわかる。また、全ての学年で、甲斐市の平均を上回っている。しかし、全校で 12 人の生徒が「いない」と答えている。

（保護者アンケートから）

- ・ 「お子さんには、相談できる友達がいるか」「いない」1.3 % 3 人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率
14	お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいいますか。 A いる C あまりいない D いない E わからない	全校	76.4		12.9	1.3	9.4
		1 年	74.7		13.2	2.2	9.9
		2 年	73.7		12.3	0.0	14.0
		3 年	80.0		12.9	1.2	5.9
		市	73.6		11.5	2.3	12.6

※この回答から、およそ四分の三の保護者が「子どもには相談できる友達がいる」と考えていることがわかる。また、全ての学年で、甲斐市の平均を上回っている。しかし、「いない」と答えている保護者が3人、「わからない」という保護者が2人いる。

・「お子さんのことで、相談できる先生がいるか」 「いない」 7. 0 % 16人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率
15	お子さんのことで、相談できる先生がいますか。 A いる C あまりいない D いない E わからない	全校	64.8		21.7	7.0	6.5
		1年	61.1		25.6	4.4	8.9
		2年	69.6		17.9	8.9	3.6
		3年	65.5		20.2	8.3	6.0
		市	62.8		19.5	8.1	9.5

※この回答から、およそ三分の二の保護者が「相談できる先生がいる」と考えている。

(課題・意見)

③「生き方教育(キャリア教育・進路指導)など」

・経験が少ない。

【いじめの早期発見・早期対応について】

- ・「いじめは、どの学級でも起こりうるものであり、誰もが加害者にも被害者にもなり得る。」という認識をもち、校長のリーダーシップのもと、学校全体で迅速かつ組織的に対応する。
- ・「竜王北中学校いじめ防止基本方針」の見直しを定期的に行い、その方針に従いながら取り組んでいく。
- ・毎週行っている「生徒指導部会」において「いじめ防止対策委員会」を行い、生徒の情報交換をしたり、認知されたいじめの解決に向けた方策を検討したりする。
- ・学年会議や職員会議等でも生徒の情報交換を行い、担任だけではなく、組織的な対応をしていく。
- ・重大事態発生時には、校内委員（校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、不登校担当、養護教諭、当該学級担任、学年主任）だけでなく、校外委員（スクールカウンセラー、学校評議員、PTA役員、関係機関）も必要に応じて招集し、学校設置者の指導・助言のもとに対応にあたる。
- ・未然防止の取組として、「学級経営」「道徳を含めた授業」「学校行事」「生徒会活動」等、学校でのあらゆる教育活動全般を通して、互いに思いやれる関係づくりを全校挙げて行う。
- ・自治活動として、生徒会が主体となり「STOP いじめ宣言」が本年度行われている。こうした、生徒から発せられる取組も、活発に行っていきたい。
- ・早期発見の取組として、「アンケート調査」「Q-U検査」「二者懇談」等を実施することで、小さな変化も見逃さないように日々の観察を丁寧に行っていく。

【不登校生徒への対応について】

- ・不登校生徒を出さないための取組として、「講演会」「道徳教育の充実」「中一ギャップ解消のための小中連携」「生徒会活動の充実」「いじめ等調査の定期的実施」等をこれからも継続して行っていく。
- ・不登校生徒への対応の取組として、「生徒理解部会を中心とした組織的対応」「SC・SSW・サポートルーム・オークルーム・児童相談所等の関係機関との連携」をこれからもきめ細かに行っていく。また、必要に応じて「ケース会議」を開き、個々の生徒に対する対応策を協議し、その対応を丁寧に行っていく。教室に戻ることを目標とするが、どこかで誰かと繋がることに重点を置き、居場所づくりに努めていきたい。

【相談できる友達・先生について】

- ・相談できる友達や先生がいない、と回答する生徒が少数ではあるが存在する。このことを職員一人ひとりが重く受けとめ、学校として、日頃の生徒との関わりを見つめ直し、よりよい関係づくりを今後も地道に進めていく。
- ・お子さんのことで相談できる先生がいない、と回答する保護者が数名いる。子どもの健やかな成長のためには、家庭と学校の連携が必要である。教師から気軽に保護者の方に声をかけ、相談しやすい環境づくりに努めていく。また、生徒と向き合い、保護者とのコミュニケーションを取ることで、そんなゆとりを生み出せる職場づくりをしていきたい。
- ・3年間の「道徳教育」の指定研究の成果も、今後につなげていきたい。

V 地域との連携について（教職員アンケートから）

- ・ 8 項目中 6 項目で肯定的な回答が 85%以上である。
- ・ V②「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」については、肯定的な回答が全 50 項目中最も低く、また、昨年度より 22.8 ポイントも下降している。
- ・ V①「地域人材や施設を活用した教育活動」 についても、肯定的な回答が低かった。

（教職員アンケートから）

- ・ 「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」（肯定的な回答） 63.6%

達成状況

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	あなたは保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	本校	13.6	50.0	27.3	9.1	63.6
		市	20.3	61.4	14.4	3.9	81.7
		H30 本校	18.2	68.2	13.6	0.0	86.4

※昨年度は、肯定的な回答が 86.4%であり、甲斐市中学校の平均よりも上回っていたが、今年度は 63.6%となり、甲斐市中学校の平均を下回った。

（課題・意見）

- ①「地域人材や施設を活用した教育活動」
 - ・ 学校は行っているが、個人では連携はとれていないと感じる。
- ⑦「保護者は、学習指導や生活指導に協力的」
 - ・ 協力的な保護者とそうでない保護者に差がある。
 - ・ 一つでも具体策をとっていきたい。

改善策

- ・ これからの学校には、学校・地域・保護者が一体となって子どもの成長を支えていく「地域とともにある学校」という視点が必要である。中学生のこの時期に、多くの大人との出会いの場を設け、多様な体験を通してさまざまな価値観と出合わせることが、豊かな心の育成につながる。また、特色ある学校づくりの観点からも、地域の資源（人・物・歴史や地理の特性など）を生かした「社会に開かれた教育課程」が求められている。こうした点を教職員全員が認識し、各教科や総合・道徳・特別活動の担当で、積極的に地域人材や施設の活用を図っていききたい。このことは、今後国全体で推進していく「コミュニティスクール」への移行を考えたときにも、大切な視点である。
- ・ この学校評価は、保護者の学校に対する考え方や評価を知る大切な機会である。今回、「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」の項目が課題となったことを前向きに捉え、学校の果たすべき役割を改めて考える機会としたい。PTA学校委員会や学校関係者評価委員会等で出される意見をしっかり受け止め、学校に関係する様々な機関や地域の方々と、共に考え共に歩んでいきたい。
- ・ 強歩大会やPTAバザーでは、多くの保護者の方にご協力いただいた。PTA活動については、新たな活動を増やしていくという方向ではなく、今ある各専門部の活動の質的な充実を図っていくことで、魅力あるPTA活動にしていきたい。

VI 学校の特色に関して

達成状況

- ・ VI⑤「学習強化週間や部活動強化週間等を生かし、個に応じたきめ細かな指導」と⑧「北中ボードの活用」以外の項目（8 項目中 6 項目）は肯定的な回答が 100%である。
- ・ 学校の特色を生かした「あいさつ」「学校開放日」「読書活動」「紫龍祭・強歩大会・合唱発表会等の行事」「学習強化週間・部活動強化週間・合唱強化週間等の指導」「小中連携活動」「北中ボードの活用」「北中ノート」については、大きな成果を収めているものもあるが、十分とは言えないものもある。

（課題・意見）

- ⑤「学習強化週間や部活動強化週間等を生かし、個に応じたきめ細かな指導」
 - ・ 学習強化期間に学習会をする時間が少ない。（今年度は特に）
- ⑧「北中ボードの活用」
 - ・ 時間の関係で、“話し合い→発表”としている。

改善策

- ・学校の特色を生かした様々な活動は、一つ一つが北中教育にとってなくてはならないものである。行事等の面では素晴らしい成果が見られたが、生活の基本である「あいさつ」においては、もう一步の状況である。生徒会活動においても、盛んに呼びかけをしている。今後もさらなる取組を考えていきたい。
- ・様々な教育活動や内容も、北中スタンダードとして定着してきてはいるが、一方でマンネリ化してきているところもある。これらを維持・発展させていくために、常にPDCAサイクルによる学校運営を行っていく必要性を感じる。

3 まとめ

- ・多忙化改善の取組が遅れていることは、否めない事実である。業務の改善や校務分掌の見直し、行事精選など職場環境的な面ももちろん大事だが、最も必要なのは、職員の意識改革である。例えば、最大限の労力をクラス経営に費やすことで、一生の絆が生まれるかも知れない。教科指導で、毎回の授業を生徒一人一人丁寧に評価することで、より生徒の希望に添った進路実現ができるかも知れない。休日など全ての時間を部活動に没頭させることで、県大会上位や関東大会をつかめるかも知れない。やり始めると、教育活動には限りがない。どこで折り合いをつけるか、である。何より大切にしてほしいと思うのは、家庭生活。生徒にしても職員にしても、家庭を大切にした上での学校生活だと思う。学校の中でひたすら仕事をするよりも、勤務時間の後や休日を利用して様々な経験をした方が、むしろ生徒に大きな影響を与え、人生を豊かにするのではないだろうか。多くの先生方が様々なことを経験しているはずで、より効果的な手法も知っていると思われる。そうしたことも含めて普段からコミュニケーションを密にし、意識改革に努めていきたい。
- ・危機管理マニュアルについては、年度当初に時間を確保して共通理解を図っていききたい。また、対処の方法もだが、普段からのコミュニケーションで意思の疎通を図ることが、何より大切である。
- ・個に配慮した授業については、全国学力調査や県学力把握調査などから、特に課題として取り上げるべきことではないと思うが、一人一人の生徒を把握した上での授業実践は大切であり、常に個を意識しているかを自身に問い続けていかななくてはならない。
- ・宿題や家庭学習に対する指導については、どのように授業を振り返るかを現在、校内研究の一つのテーマとしている。その中で、全ての生徒が実践できる方法を探り、それを見直して、より効果的な方法を見いだしていきたいと考える。
- ・主体的・対話的で深い学びを意識した授業については、校内研究のサブテーマであり、継続して研究していきたい。生徒の主体的な学びを引き出すこと、また、深い学びとは何かを追い求め、生徒の前に立つ教員として常に学び続けたいと考える。
- ・道徳教育については、今年度から「特別の教科 道徳」として教科書で授業を行っている。まずは、その定着を図るところから始めている。とはいえ、道徳教育は、学校生活全般にわたって行うものであり、教員の態度や発する言葉すべてが教員としての立場をわきまえたものでなくてはならない。襟を正して、普段からの行動・言動に細心の注意を払っていききたい。
- ・保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集及び地域人材や施設を活用した教育活動については、これからさらに重視すべき項目である。学校の中だけで教育を進めるわけにはいかない。地域を知り、地域の人材を取り入れ、地域の機関や事業所とも協力し合って、学校教育を推し進めていかななくてはならない。そうすることが、今回の教育課程改定の趣旨である「社会に開かれた教育課程」に通じるものとなる。
- ・竜王北中全体を見て、とてもいい学校だなと思う。安心安全が保たれている。それは、当たり前のことではなく、教職員の不断の努力の賜物である。それに応えるように生徒は明るく元気で、主体的に学校を良くしてこうとする気持ちが伝わってくる。こうして、好循環が作られている。しかしながら、全てが全ていいばかりではない。何らかの理由で普通に登校するのが難しい生徒も少なからずあり、いろんな方々や関係する機関が関わって、絶えず何らかのアプローチを試みている。こうした課題を、教職員の目、生徒の目、保護者の目、地域の目を見て評価し、様々な改善方法を見いだしていくことが、この自己評価の目的である。今後も、こうした取組を大切な機会とし、地域の中にある学校を目指していきたい。幸せは自分自身だけのものではなく、まわりが幸せであって初めて、みんなと喜び合える幸せとなる。